



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 末吉卓也
1部60円年間訂共1100円

道標

【司教区昇格五十周年】
小教区が活性化し
教区が一つとなるように

殉教者の信仰を手本に！

川内殉教祭で信徒の生き方を学ぶ

平佐城主北郷加賀守の家臣レオ税所七右衛門敦朝は一六〇八年十一月十七日、信仰を捨てなかつたために斬首刑に処せられた。受洗から四か月足らずでの殉教であった。僅かの間に最も強い信仰を世に顕したレオの遺徳を偲び彼の列福を祈願する恒例の川内殉教祭が、十一月二十日(日)午後、川内教会(ジ・ハンマ神父主任司教)であった。各地から集まった二百人余りの信者は、講話でレオが育った時代のカテキズムについて学習し、ミサで彼の生き方を振り返るとともにその列福の早期実現を祈った。

一九八五年から続けられた二十一回目となった同祭で、講演したのは、ジ・ムーベール神父(レデンプートル会・谷山教会主任)。ローマで学び、また日本の教会の歴史に詳しい神父は、レオが生きた時代に使われた要理書やヴァリニャーノ

神父(イエズス会・一五三九〜一六〇六年)に代表される宣教師たちの要理方法について熱心に解説した。ムーベール神父は「ヨーロッパの要理書を日本化するのには大変苦労が必要だったし、間違いも多々あった。しかしその要理の中には現代でも大切にされるべきものがある」とし、今の子どもたちに神への信仰と信頼、キリストに基づく愛と希望、ローマを軸とする教会への一致、聖母マリアへの尊敬を伝えて欲しいと信者たちに

メッセージを送った。講演後は糸永司教司式のミサがささげられた。ミサの説教で糸永司教は、レオ七右衛門をはじめとする百八十八人の日本の殉教者の列福申請の現状を報告。その上で「殉教者の生き方こそキリスト者の生き方



①殉教者の信仰について話す糸永司教
②レオが受洗した京泊教会跡地で祈りをささげる

しかしこの生き方が危機に脅かされている」と鹿兒島教区のミサ出席率低迷や司教召命不足の現状を挙げて説明し、「殉教者を顕彰し敬おうとしなければますます危機的状況に陥る。殉教者を見習い信仰の原点に立ち返るように」と信者たちを励ました。

ミサの終わりには全員

「聖体」について学習

教区典礼研修会

十一月二十三日(水)ザビエル教会と教区本部を会場に教区典礼研修会が行われ、約八十人の信徒と司祭、修道者が参加した。今回は中央協議会の典礼委員を務めるフランコ・ソットコロノラ神父(聖ザベリオ宣教会)を招き

「『聖体とは?』」をテーマに基調講演が行われた。講演でフランコ神父は「『聖体の秘跡を制定された最後の晩さんの行為にはイエスの心が表れている。それをミサを通して思い起こすことが教会の頂点であり源泉である。だからその行為すべてを大切にしなければならぬ』としながらも『犠牲』という側面に絞って話し、「私たちが聖体をいただく時、イエスが私たちのためにその命を犠牲にして与えてくださり、イエスの愛が現され、神の愛を知ることが出来る。この犠牲こそ愛の最高の行為だ」と話した。

また、「キリストの死は新しい過ぎ越しの子羊の犠牲」と話し、「イスラエルの民がエジプトで、過ぎ越しの時に子羊を食べて奴隷の世界から、全人類の救いに先駆けて神の国へ歩き出したように、新しい子羊を食べた私たちは罪に負ける世界を離れて神の国へ歩き出す、つまり、この世界を神の国へ変える使命を受けている」と力強く話した。

講演の後は昼食をはさんで分科会があり、講演をもとに「聖体」について分かち合いが行われ、その後ミサで締めくくられた。

羅針盤

鹿兒島教区が司教区に昇格する二年前の一九五三年三月、司祭に叙階され同年四月教区長館付きとなった私は、週日のミサは純心聖母会修道院、主日には創立間もない鴨池教会で行うこととなった。鹿兒島の事情も少しは分かりかけた八月、学生時代の病が再発し入院治療を余儀なくされた。「退院は少し早い状態であるが、司祭不足の鹿兒島教区の事情を考えると退院

司教区昇格の頃の鹿兒島

垂水教会主任司祭 田原 章

兼司祭の住居で事務室は縁側の一角だった。主日になると間仕切りのふすまを取り外し、八坪の祭儀の場となる名実ともに家庭的教会だった。台風シーズンともなると周囲に巡らしていた古い板塀はひとたまりもなかった。財政的余裕

はたいておにぎりを作つてあげた。明日の食事にも事欠くようなどきであつただけに、数日後彼らから感謝の葉書が届いたときの喜びは今でも忘れられないという。司教区昇格一年後の一九五六年十二月、指宿教会は来日間も



教区人事

- ▼エキユメニズム担当
亡くなった小平卓保神父に代わり桃蘭淳一郎助祭(鴨池)
- ▼青少年担当
F・レナト神父(ザベ)

リオ宣教会・前鹿屋教会助任)が担当していた青年司牧を末吉卓也神父(ザビエル教会助任)
▼下村徹神父
長期静養中であつたが、十月末をもって長崎大司教区へ籍を移した。

終身助祭が やつて来た

種子島教会

十一月十三日(日)種子島教会で信者たちに聖体を授けたのは、この九月、桃園淳一郎師(鴨池教会)とともに教区初の終身助祭に上げられた久保俊弘師(教誨師・谷山教会)。仕事の都合で教会を留守することになったベルナルディーノ神父の代理を果たしたのだ。



この日の「みことばの祭儀」が同祭儀の初司式となった久保助祭は前日、海路で種子島入り。「やはり緊張した」という大役を果たすために、奥さんと谷山教会の祈りの集いの仲間二人も応援団として同行してもらった。



大会の実りを熱心に報告する

今年八月にドイツで行われたワールドユースデーに参加した青年達を中心に、十月二十九日から三十日にかけて青年の集いが行われ、WYDでの感動を分かち合った。

ドイツでの感動を分かち合おう WYD参加者がその実りを報告

今年八月にドイツで行われたワールドユースデーに参加した青年達を中心に、十月二十九日から三十日にかけて青年の集いが行われ、WYDでの感動を分かち合った。

今年八月にドイツで行われたワールドユースデーに参加した青年達を中心に、十月二十九日から三十日にかけて青年の集いが行われ、WYDでの感動を分かち合った。



大会の実りを熱心に報告する

今年八月にドイツで行われたワールドユースデーに参加した青年達を中心に、十月二十九日から三十日にかけて青年の集いが行われ、WYDでの感動を分かち合った。

「WYDでもらった恵みを活かして多くの人に愛を伝えたい」などの感想があった。また他の青年からは「お互いを理解し合える友達やパートナーの存在はとても大切だ」等と活発な分かち合いが行われた。泉神父も「WYDは終わったが、私たちの巡礼の旅は終わらない。毎日が巡礼だ」と青年たちを励ました。

翌三十日午後にはザビエル教会で青年達を中心に信者と司祭たち二十五人が集まり、WYDの報告会が行われた。会場にはその日の午前中から青年達が準備した大会写真や新聞の切り抜き、旗やバッジ、帽子など記念のグッズが展示され、また報告会では写真の

「WYDでもらった恵みを活かして多くの人に愛を伝えたい」などの感想があった。また他の青年からは「お互いを理解し合える友達やパートナーの存在はとても大切だ」等と活発な分かち合いが行われた。泉神父も「WYDは終わったが、私たちの巡礼の旅は終わらない。毎日が巡礼だ」と青年たちを励ました。

翌三十日午後にはザビエル教会で青年達を中心に信者と司祭たち二十五人が集まり、WYDの報告会が行われた。会場にはその日の午前中から青年達が準備した大会写真や新聞の切り抜き、旗やバッジ、帽子など記念のグッズが展示され、また報告会では写真の

平和願って

ミカエル祭 笠利小教会

大笠利教会(内野洋平神父)の守護者は大天使聖ミカエルです。九月二十九日(木)の聖ミカエルの祝日を前に、九月二十五日(日)にミカエル祭を催しました。

当日は、小教会合同のミカエル祭のミサが、内野洋平神父と前主任司祭の浜田盛茂神父により午後五時からささげられました。その後六時半からは祝宴もありました。

守る役目を果たしていると言われています。今の世は国内的にも悪が多く、世界的にも戦争が絶えず多くの悪がはびこっています。現代ほど世界の平和のために大天使の守護

守る役目を果たしていると言われています。今の世は国内的にも悪が多く、世界的にも戦争が絶えず多くの悪がはびこっています。現代ほど世界の平和のために大天使の守護



守る役目を果たしていると言われています。今の世は国内的にも悪が多く、世界的にも戦争が絶えず多くの悪がはびこっています。現代ほど世界の平和のために大天使の守護

短 信

▼小宿教会にスロープ このほど小宿教会入口に手摺りの付いたスロープが設置された。これは高齢化する信徒たちが教会に入りやすくなり、同教会壮年会(森山武久会長)らが手作りのもの。十一月二十日に実施した教会バザーの益金を工事費に充て、壮年会員のタレントをフル活用しての完成となった。



クリスマスミサのご案内

教会	24日	25日	教会	24日	25日
出水	19時	9時	大笠利	19時	8時
阿久根	19時	9時	大熊	20時	*
川内	19時30分	9時	和光園	*	8時
入来	19時30分	10時	浦上	*	9時30分
大口	19時	9時	芦花部	*	18時
国分	19時30分	9時30分	聖心	20時	9時/19時
始良	20時	10時	古田町	20時	9時
吉野	20時	10時	西仲勝	20時	7時30分
玉里	20時	9時	喜界島	*	13時
ザビエル	20時/23時	10時	古仁屋	20時	9時
谷山	19時	10時	山間	18時	*
加世田	19時	10時	西阿室	*	15時
枕崎	*	14時	母間	19時	*
垂水	20時	10時	岡前	*	9時
鹿屋	19時	9時30分	沖永良部	19時30分	9時
星塚	*	8時	小宿	*	9時
根占	19時	9時30分	大棚	19時30分	*
溝辺	20時/0時	9時			
志布志	19時30分	10時			
種子島	20時	9時			

私たちの小教区活動

和泊教会でフィリピンデー

私たち和泊小教区には、結婚して日本の家庭に入られたカトリックのフィリピン女性が、現在分かっているだけでも五十六人います。これは全信徒の半分近くに当たります。小教区では月一回、地元の信者と一緒に日本語、英語、タガログ語(聖書朗読のみ)を混ぜたミサがあります。ミサには参列するのは子ども大人あわせて二十人前後です。その時には英語の教会ニュースや教区報のタガログ語メッセージを配っています。また子どもの要理は毎週教会でしたり、自宅に出向いたり。通常の日曜ミサのためには送迎し、ミ

サ後に子どもたちの時間をとったり、また都合に合わせて午後学習会をしたり。また夏休みには一緒に学べるように、昨年からは泊二日の合宿もしています。要理を学ぶ子どもが増えるのは楽しみです。

主任司祭のメニヒ神父は、以前から年に一回でもこのフィリピン女性達が自分の国の母国語でミサやゆるしの秘跡、その他の指導を受けられるようにフィリピン出身の司祭を招く計画をしていましたが、この度「世界難民移住移動者の日」(九月二十五日)に実現させました。お招きしたのは種子島教会のベルナルディ

ノ神父。この日はメニヒ神父が種子島へ行き、司式者の交換となりました。教会ではこの「フィリピンデー」のために、前もって主任司祭とベルナルディ神父が書いた案内を配り、また教会から電話したり、彼女達同士でも連絡を取ってもらいました。ベルナルディノ神父は早めに沖永良部に来られ、私と一緒にフィリピン女性達の家庭を一軒一軒訪問しました。彼女達は表情豊かに会話し、笑い、怒り、泣き、そして祈りました。自分の国の言葉で話せる喜びは、言葉は分かりませんが、そばにいて私にも十分

に感じられました。三千軒ほど訪問し、二十人に会えました。会えなかった家には名刺に一筆書いて置いてきました。

当日のタガログ語ミサには、訪問できなかった人や会えなかった人も何人か出席してくれました。参列してくれたのは大人二十人と子ども十八人、活気溢れ

ゆらい・あいに参加して

ザビエル教会 二宮敏子

「ゆらいあい」六月十一日にこの会が発足して、はや五か月が過ぎた。

会は司教さまのごミサで始められる。その後の食事会は、その名の通り和やかな楽しい会である。

ゆらいとは「奄美の言葉で親しい人たちが集い、語り・互いに助け合う」と

る集まりとミサになりました。子供たちも親と一緒に祝福を受け、教会の希望は一層広がりました。

ミサ後は各自が持ち寄ったフィリピン料理で楽しいひとときを過ごしました。そして来年も同じようにフィリピンデーを開催しようと呼び掛けました。

(報告)シスター荒木関

ザビエルさまの散歩道

神さまの望みのままに!

先日、鹿児島中央駅前大きなクリスマスツリーが点灯されました。この季節は他にもあちこちで同様のツリーや装飾でクリスマススムードを盛り上げます。世間では待降節なんか関係なく十一月初めからこの調子です。

大天使ガブリエルが突然現れ「救い主を身ごもりますよ」と言われたマリア様はどんなにビックリしたでしょう!

でもすぐ「お言葉どおりにな

りますように」と答えています。カナの婚禮の時もマリア様はイエス様に「まだその時ではない」と冷たくされるのに、「あの人の言うとおりにして」と。

神様と御子イエス様の心からの従順と信頼のなせる業です。

ザビエル様も神様への心からの信頼を強く教えています。ザビエル様が、自分は何もできない「もつと苦しみが必要だ」と祈りながら自分で自分を鞭打つほどの謙虚さは、神様への完全な信頼があ

が同じくらいいらつしやる。お食事を作ってくださいる方々や送迎の方々、その

すべての方が本当にキリスト的爱で奉仕してくださいるにまず頭が下がる。

またロザリオの祈りの後、みんなで歌う時も皆童心に帰って楽しそうだ。鴨池教会の木原先生がハーモニカで伴奏してくださる唱歌の数々、どの歌にも若き日の思い出がある。皆無心で、何のてらいもなく美しいハーモニーを奏でてい

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

純心学園 田村鏡子

体育祭まぶしくみゆる競う子ら
体育祭がやく笑顔悔いはなし

(評)「まぶしくみゆる」もよく、「悔いはなし」は作者の笑顔である。

鹿児島 徳永ノブ子
小島見ゆ長崎鼻や鳥渡る

純心学園 山頭信子

どんぐりをポケットに入れロザリオ
つばぎの黄の花咲きて冬立ちぬ

出水 遠竹睦郎
月の弓星一つ従へ渡りをり

名瀬 松畑義弘

純心学園 川上 和
紫のあさがお笑う柿の枝

阿久根 中津濱フサエ
寒椿一枝手折りてかみにさす

鹿児島 春山マリ子

眠る顔優しき老女秋の夢
薬や惜しむ棚田の穂波かな

(評)「ひこばえ」の穂波が浮かぶ句
俎の窪みも恋し母の音

鹿児島 龍門司真人
短歌 (思川短歌会作品)

阿久根 中津濱フサエ

寒き朝神の恵みをいただきて心清く
し朝餉にむかふ

(評)「心清くし朝餉にむかふ」がよい。
名瀬 林 明子

ラヴプレスはずしたくないアレギーあ
なたといっしょいっしょいっしょ

鹿児島 春山マリ子
人間の心は常に変りゆき傷付き痛み暗く

沈みぬ

純心学園 川上 和

キャンパスの白亜の聖母仰ぎ見てこ
の日一日を清しく生きる

出水 遠竹睦郎
両親の愛に包まれ育ちゆく弟の孫の
ビデオに見入る

古仁屋 豊島忠司
病む娘持つ末っ子悦子の面影が幼く
浮かぶ五十過ぎて

新春にこんな黒い鶏を描く悦子の
胸に涙が哭くのか

(評) 結句に愛の尊さを感じさせる佳作
鹿児島 前田儀子

ひっそりと立つ秋の虹暫くは黒き日
傘をたたみて眺む

鹿児島 田平新太郎
嘉例川の駅に集へる人波は古きを求め親
しむ眼

鹿児島 田平新太郎

鹿児島 田平新太郎

戦後60年「声」特集

戦争体験と私の信仰

編集・発行 カトリック新聞社
A5判 104頁 300円 (税込)



この本は、カトリック新聞・戦後六十周年の特集号の「戦争体験と私の信仰」を小冊子にしたものです。多くの読者から、平和への訴えを一過性で終わらせろではなく、戦後六十年という節目の記録として、ぜひ単行本に残してほしいという要望におこたえするべく発行したものです。

平和を愛し、平和建設の使命をともしする多くの人々に、ぜひ読んでいただき、戦争を知らない若い人々に平和の尊さを伝える貴重な資料として生かしていただければと願っております。

ご注文はサンパウロ、女子パウロ会書店で承ります。
サンパウロ東京宣教センター TEL03-3357-8642
女子パウロ会通信販売部 TEL0463-34-1414

「こんな自分でも神様が使ってくださいるならどんな困難も乗り越えられます」って!

十二月三日サンシヤン島で一人凍えながら亡くなったザビエル様は最後まで「神様がいるから大丈夫!神様の望みのままに!」って思ってたんですよ。

ザビエル上陸記念祭実行委員会から▼このコラムでは皆さまのザビエル神父様への想いや様々な声をお待ちしています。今後もお協力をお願い致します。当コラムへの寄稿は四百字以内で教区本部・久保まで



へえ、日本の教会は今こうなんだ...
ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。

週刊カトリック新聞

1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com